

第3節 もおか若者会議

(栃木県真岡市)

泉澤佐江子 (一般財団法人自治研修協会 リサーチパートナー)

調査日 2023年11月15日(水)

調査場所 真岡市役所

調査先 真岡市総合政策部総合政策課

課長補佐 横田由裕氏、主査 小池宏侑氏

調査者 泉澤佐江子、大杉覚 (東京都立大学法学部教授)

1. 真岡市の概要

真岡市(もおかし)は、栃木県の南東部に位置し、東に連なる八溝山地、西に流れる大河鬼怒川を抱える自然環境豊かな都市であり、東京から90キロメートル

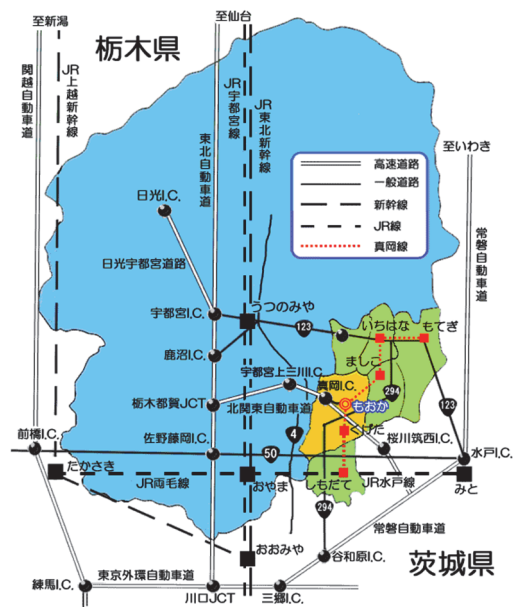
圏内に属し、東京駅から東北新幹線を使えば約1時間40分の距離にある。都市計画、工業団地造成、ほ場整備が進み、農業、工業、商業がバランスよく調和した地方都市である。

この地方は、古くから芳賀地方の政治、経済、文化の中心的役割を担い、江戸時代には「真岡木綿」の特産地として全国にその名が知られていた。

昭和29年に近郊4町村が合併し、真岡市が誕生。平成21年3月には隣町である二宮町と合併し、現在に至る。

かつては農業を産業の基盤とするまちであったが、現在は大規模な工業団地を有

するハイテク都市として発展を続けている。



<真岡市の基礎データ>

面積 167.34 km²

2020 (令和2) 年国勢調査人口 78,190 人

2021 (令和3) 年度決算 (普通会計) 歳出総額 35,031 百万円

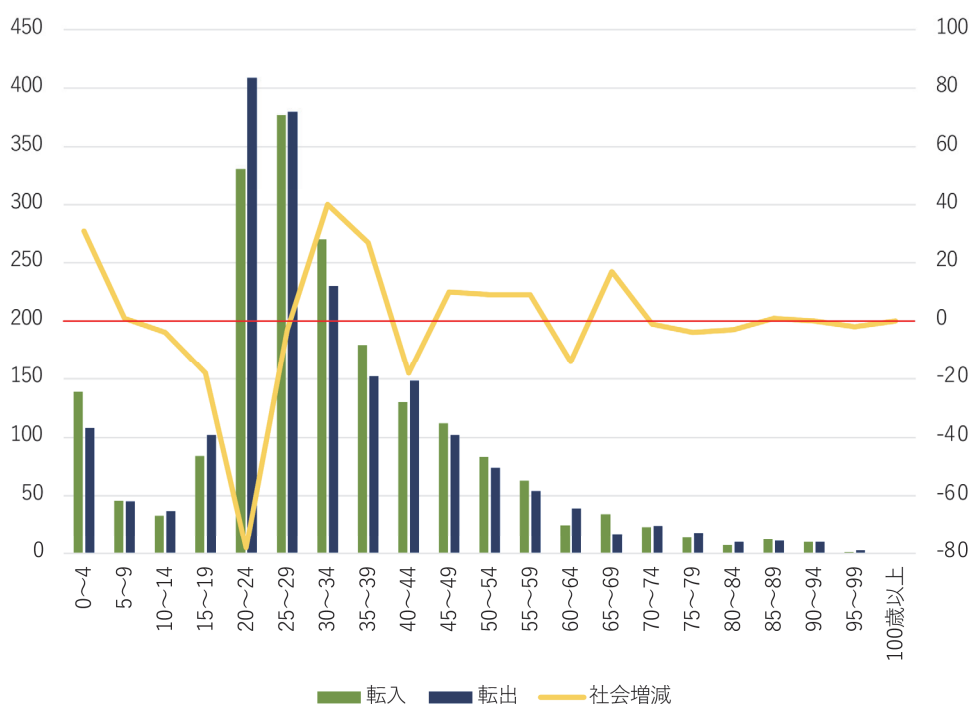
2021 (令和3) 年度財政力指数 0.84

(市HP等より)

2. 真岡市の問題意識

人口減少はどこ自治体も抱える問題だが、真岡市が特に注視するのは若年層の減少である。図1は令和4年の移動年齢別転出入増減数を示したのだが、10代後半～20代の転出超過が明らかである。日本人のみのグラフとしているのは、日本一のいちご生産量を誇る真岡市では、いちご農家で働く外国人労働者の転入が多いためである。外国人住民を参入すると人口減少は目立たなくなるが、これからの真岡市を背負うことになる若者世代は確実に減少している。

図1：令和4年真岡市移動年齢別転出入増減数（日本人のみ）



(資料：真岡市提供)

若者がまちを出て行ってしまふ。真岡市ではこうした問題意識のもと、若者に選ばれるまちを目指すことになる。「JUMP UP もおか～だれもが“わくわく”するまち」という将来都市像を掲げ、若者の意見をまちづくりに活かすための政策を複合的に進めてきた。これは若者の意見を市政に反映させると同時に、若者自身がまちづくりに向けて自ら行動できるよう促すための仕組みづくりである。

平成30年度には、総合計画に若者の声を取り入れるための事業として、高校生から30歳未満までの市民を対象とした「若者ミーティング」を開催した。これは若者たちが語る未来を総合計画に取り入れることを意図したものであったが、まちづくりに関する意見を広く聴取したためか、現実的でない意見が多かった。例えば、JR駅の建設や大型商業施設の誘致等である。これらは若者の率直

な思いだが、総合計画や総合戦略との対応を整理することが難しいというだけでなく、自らの行動を伴う活動には結びつかない。あくまでも目的は若者の行動を立ち上げることにある。

こうした課題を踏まえて、真岡市は若者の力を生かすための政策にあらためて取り掛かった。人口減少をはじめとした地域課題を克服し、真岡市をよくしていくためには官民連携、市民協働の取り組みが欠かせないという認識のもと、大学生や民間事業者、市民活動団体、行政と一緒にまちの未来を考える仕組みづくりを始める。令和3年度から開始した2つの事業「真岡まちづくりプロジェクト(まちつく)⁸」と本レポートで紹介する「もおか若者会議(以下、「若者会議」という)」である⁹。

3. もおか若者会議の概要

(1) 特徴

若者会議とまちづくりプロジェクト。どちらも若者のアイデアや活力を具体的なまちづくりの場に生かしていくための施策だが、対象や目的が少し異なっている。まちづくりプロジェクトは高校生・大学生と商業者・市民団体を主な対象とし、民間事業者が若者の活動を後押しして実現していくという立て付けになっている。それに対して若者会議は、市役所職員と民間の連携、それも地域活動への参加が少ない若手職員を軸に、市内団体の青年層や市民が連携する機会を作り、それをもって参加者のスキルアップを図りながら官民連携のまちづくりを進めていくことを目指している¹⁰。

この行政と市内団体の青年層同士の連携という点が真岡市の若者会議の特徴であるが、ここには、「これからのまちづくりには官民連携をもっと推進する必要がある」という首長の思いがある。「昔は青年団活動があつて、行政とまちの人が関わることでまちづくりが広がり、人も育った。だが今はこうした機会が少ない。だからこそあえて作る必要があるのではないか¹¹」。この思いが若者会議の基礎となっている。その特徴が表れているのが委員構成である。

⁸ 真岡まちづくりプロジェクト(まちつく)については、真岡市ホームページ参照のこと。
https://www.city.moka.lg.jp/kakuka/pj_suishin/gyomu/jumin_katsudo/mokamachidukuriproject/index.html (2023/12/10 確認)

⁹ どちらも宇都宮大学との連携による。

¹⁰ 若者会議という手法を選択したのは、若手職員と市内団体の青年層等との連携を図る事業として、他市の若者会議の事例を調査した結果、最適と判断したとのことである。

¹¹ 職員からの聞き取り調査による。

表 1：もおか若者会議の概要

| | |
|---------|--|
| ① 目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 真岡市の若者がまちづくりに参画する機会の創出 ・ 未来を担う人材の育成 ・ 若者同士の横のつながりの形成 ・ 若者の声を市政に反映 |
| ② 資格等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格：概ね 18 歳（大学生）以上 40 歳以下の市内在住・在勤の方、真岡市出身者、真岡市に興味のある方 ・ 人数：20 名 ・ 活動期間：毎年度募集（継続して応募することも可） ・ 活動費：真岡市の交付金を元に運営 |
| ③ 委員構成等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 真岡青年会議所：理事長に推薦を依頼 ・ 真岡商工会議所青年部：青年部会長に推薦を依頼 ・ にのみや商工会青年部：青年部会長に推薦を依頼 ・ 農業者青年層：農政課、農協へ参加者調整を依頼 ・ 市職員：経験年数 5 年以上～40 歳程度、自薦・部長推薦 ・ 一般公募（大学生以上）：公募 |

（真岡市資料より筆者作成）

表 1 を見てほしい。①目的、②資格等は他市事例とあまり変わらないが、③の委員構成に特徴がある。青年会議所、商工会議所青年部、にのみや商工会青年部、農業者等の市の主要アクター、市職員、そして一般公募の市民（大学生以上）という構成からも、市の目論見が職員と市内団体の青年層や大学生、社会人がともにまちの未来を考える場を設置し、今後のまちづくりに生かすためのつながりづくりにあったことが見えてくる。

委員の任期は 1 年。継続は可能だが、あらためて新規に申し込むこととなる。これはできるだけ多くの人に機会を提供し、多くの人材育成に活かすためである。なお、令和 5 年度は一般公募の数を増やしたとのことである（応募状況及び年齢構成は表 2～3 のとおり）。

表 2：もおか若者会議の委員内訳（単位：人（ ）内は女性）

| 団体名 | 令和 3 年度 | 令和 4 年度 | 令和 5 年度 |
|------------|---------|---------|---------|
| 真岡青年会議所 | 2(1) | 2(1) | 1 |
| 真岡商工会議所青年部 | 2(1) | 2(1) | 1 |
| にのみや商工会青年部 | 2 | 2 | 1 |
| 農業者青年層 | 2 | 2 | 2 |
| 市職員 | 8(4) | 8(5) | 8(5) |

| | | | |
|------------|--------|--------|--------|
| 一般公募 | 4(3) | 4(3) | 7(4) |
| [*参考：応募者数] | [5(3)] | [6(3)] | [7(4)] |
| | 20(9) | 20(10) | 20(9) |

*令和3年度は若者会議設置に向けた勉強会として実施（以下同様）。
（真岡市資料より筆者作成）

表 3: もおか若者会議の年齢別人数（単位：人）

| 年代 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-----|-------|-------|-------|
| 10代 | 2 | 4 | 2 |
| 20代 | 6 | 4 | 10 |
| 30代 | 9 | 9 | 7 |
| 40代 | 3 | 3 | 1 |

（真岡市資料より筆者作成）

（2）市の役割

先述のように、真岡市の若者政策が目指すのは、若者たちがまちづくりについて自ら考え、行動を起こすこと、そして魅力あるまちづくりに向け、若者の考えを市に提案してもらい、市政に活かすことである。それゆえ市の役割は最小限に留め、主導的な動きはできるだけ控えるように努めている。若者会議で検討する内容についても、地域課題の大枠は示しつつも詳細は参加者同士が対話をしながら決めていくこととし、運営も含めて参加する委員の自発的な行動を引き出すよう努めている。

なお、職員委員は職務として若者会議に参加するのではなく、あくまでも私的な立場で参加している。事務局は担当課職員が務めるため、職員委員の役割は他の委員と変わらない。応募方法は自薦もしくは部長推薦となっているが、自ら手を挙げる自薦での応募も多いとのことである。

【市の役割】

- ・ 事務局（市総合政策課）として活動のサポート
- ・ 活動費に対する支援（交付金の支給）
- ・ 活動する場所に対する支援（公民館等の会場を提供）
- ・ 場づくりの補助（各団体への声かけや一般公募等のPR等）

（3）活動概要

① 令和3年度：事前勉強会の開催

初年度の令和3年度は、まず真岡市の現状を知り、課題を見つけてもらうこ

とが必要であるという考えから、団体設置に向けた事前勉強会として開催した。まず市側から地域課題を考える上で委員に理解しておいて欲しい視点を提示した。それを基に10月から3月までの6ヶ月の間、4班に分かれて議論を行い、4つのテーマを抽出した。最終回の発表会では市長に対して直接報告を行い、その内容は市役所及び関係団体に共有された（活動の内容は表4を参照）。

【市が提示した視点】

- ・ 市が今後も持続的に発展していくため「若者に選ばれるまち」に向けた取り組みを進めていきたい。
- ・ いきなり移住・定住を目指すのは難しいので、まずは市の魅力を多くの人に知ってもらうため、真岡ならではの「地域資源」を活かした取り組みを進めたい。

【令和3年度に抽出したテーマ】

- ・ 農村の活用（有休農地、田園風景等）
- ・ 真岡木綿（生産、活用等）
- ・ 農産物（いちご、メロン、お米等）
- ・ 人を呼び込むイベント（既存、新規含む）

表 4：令和3年度事前勉強会の内容

| 日時 | 内容 |
|-----|--|
| 10月 | キックオフミーティング 「若者に選ばれるまち もおか」を実現した未来の真岡市とは？ |
| 11月 | 講演、グループワーク、真岡市の「地域資源」の掘り起し 掘り起こした地域資源について参加者からアンケートを取り、興味に応じて4班に分ける |
| 12月 | グループワーク、「地域資源の活かし方」等について話し合い |
| 1月 | 班ごとにテーマに応じた市内の施設等を視察 |
| 2月 | 発表に向けた準備 |
| 3月 | 発表会 |

（真岡市資料より筆者作成）

② 令和4年度：若者会議の立ち上げと抽出テーマの掘り下げ

2年目の令和4年度は実際に若者会議を立ち上げ、前年度に抽出したテーマについてさらに検討を進めた。農村の活用、真岡木綿、農産物、イベントという4つのテーマをどのように掘り下げて実装化するか、手段や方法も検討しつつ、それが実際の事業として成立するかをテストするための簡単な実証事業を行った。

例えば、市内の農地付き空き家を若者の集まる拠点として活用するためのイベント（バーベキュー）や、真岡の農産物を市外向けに PR するためのピザ焼き教室¹²等である。残念ながらこれらの実証事業は本格的な事業化には結びつかなかったが、企画から実施まで委員たち自身で行っている。

そのほか、参加者間の横のつながりを醸成し、交流を促す試みとして、他の事例から学ぶ試みも行われた。早い段階で、先進自治体である新潟県燕市の若者会議のメンバーから団体運営や参加者に活動に取り組んでもらうための工夫や方法等について話を聞き、1年間の活動に生かした。3月の発表会には市長ほか各団体の長も参加している（令和4年度の活動内容は表5のとおり）。

表 5: 令和4年度若者会議の内容

| 日時 | 内容 |
|--------|-----------------------------|
| 5月 | キックオフミーティング、団体立ち上げ |
| 6月 | グループワーク、「つばめ若者会議」の活動を学ぶ |
| 7月 | グループワーク、昨年抽出したテーマについて改めて検討 |
| 8月 | （他自治体への視察を予定していたがコロナ禍のため中止） |
| 9月① | 今後の流れの説明、班に分かれて検討開始 |
| 9月② | グループワーク、視察箇所の調査・選定 |
| 10～11月 | 班ごとに視察を実施 |
| 11月 | グループワーク、視察内容の共有と中間発表に向けた準備 |
| 12月 | 中間発表（発表内容は録画し、市や各団体に共有） |
| 1月 | グループワーク、実証事業に向けた準備 |
| 1～2月 | 班ごとに実証事業を実施 |
| 2月 | グループワーク、発表会の準備 |
| 3月 | 発表会 |

（真岡市資料より筆者作成）

③ 令和5年度：団体の自走に向けた試み～若者ミーティングの運営

3年目の令和5年度は、若者会議の自発的な活動につなげるという、今後に向けた活動がテーマとなっている。真岡市は令和5～6年度にかけて新たな「総合計画」「総合戦略」の策定を予定しており、その総合計画策定に向けて広く若者の声を聴取するための「若者ミーティング」の運営を若者会議が行っている。

若者ミーティングは、平成30年度の計画策定時も実施した事業である。高校

¹² 隣の上三川町のピザ屋の協力のもと実施した。市外に向けた PR ということから、あえて隣町で実施したとのこと。

生から 30 歳までの若者に真岡市の未来を語ってもらい、その意見を行政計画策定に生かそうとするものだが、平成 30 年度は若者世代のリアルな声を聴取することはできたものの現実的な意見に乏しく、総合計画への反映という段階に達することはできなかった。

こうした前回の課題を踏まえて、意見聴取を表面的な段階に終わらせず、背景にある課題を深掘りして意見書という形にまとめて市に提言するというのが、令和 5 年度の具体的な活動内容である。若者ミーティングの運営主体が市から若者会議に移り、加えて単なる意見聴取に終わらせることなく意見書としてまとめて市に提言する。これが平成 30 年度と令和 5 年度の大きな違いである。

10 月 21 日に行われた若者ミーティングの第 1 回目では「真岡市の推しポイント」「私が市長だったら」というテーマで広く意見を聴取し、テーマを抽出¹³。11 月 18 日に行われた第 2 回目ではこれらのテーマについて 6 班に分かれて対話を重ね、意見の背景にある課題を踏まえた上で市の未来について発表を行った¹⁴。この後は若者会議へ持ち帰ってさらに議論を重ね、意見書としてまとめた上で、市に提言を行う予定である（令和 5 年度の活動内容は表 6 のとおり）。

【令和 5 年度の若者ミーティングで出されたテーマ】

- ・ 交通環境の充実（自転車活用等も含む）
- ・ 子育てや教育環境の充実
- ・ 若者を呼び込む施設や拠点の整備
- ・ 食に関すること（農業や事業者への支援も含む）

表 6：令和 5 年度若者会議の内容

| 日時 | 内容 |
|-----|-----------------------------------|
| 5 月 | キックオフミーティング、参加者同士の交流 |
| 6 月 | グループワーク、H30 年度に実施した若者ミーティングの内容を体験 |
| 7 月 | 市内視察、真岡市のことをより知るために市内の観光拠点等を視察 |
| 8 月 | グループワーク、若者ミーティングの開催方法を検討 |
| 9 月 | グループワーク、8 月に決めた内容でミーティングのデモを実施 |

¹³ 詳細は真岡市ホームページ参照のこと。

<https://www.city.moka.lg.jp/kakuka/sogoseisaku/gyomu/8/wakamonokaigi/21190.html>
(2023/12/10 確認)

¹⁴ 詳細は真岡市ホームページ参照のこと。

<https://www.city.moka.lg.jp/kakuka/sogoseisaku/gyomu/8/wakamonokaigi/21191.html>
(2023/12/10 確認)

| | |
|-----|-----------------|
| 10月 | 若者ミーティング 1回目 |
| 11月 | 若者ミーティング 2回目 |
| 12月 | 抽出した意見を基に意見書を作成 |
| 1月 | 抽出した意見を基に意見書を作成 |
| 2月 | 市に意見書を提出 |

(真岡市資料より筆者作成)

4. 成果と課題

若者会議の目的は、「若者のまちづくりへの参加機会の創出」「未来を担う人材の育成」「若者同士の横のつながりの形成」「若者の声を市政に反映」である。真岡市の場合、その中でも行政と市内団体の青年層同士の連携を図り、まちづくりの基盤とするという特徴がある。

この点において、市としては、この3年間で少しずつではあるが横のつながりができ始めたと考えているとのことである。市職員と団体、あるいは団体間の連携が進み、顔の見える関係性ができたことで、相互に協力依頼がしやすくなった。また、真岡出身ではない大学生が若者会議をきっかけに真岡市に興味を持ち、プライベートで観光いちご園や門前地区等に遊びに行くようになった等、市への興味が深まっている例もある。さらに、若者会議メンバーの大学生が青年会議所の勉強会に参加したりと、横のつながりが見えてきているとのことである。

また、若者会議の提案から事業化される事例も生まれ始めている。例えば、令和3年度に提案した井頭公園でのアウトドアイベントの開催は、その趣旨を踏まえ、令和4年度から「いがしらリゾート秋フェス」として開催されている。ほかに、令和5年度から始まった小学校での木綿の栽培体験授業は、令和4年度の若者会議の提案が実現したものである。このように少しずつではあるが具体的な成果が見え始めている。

人口減少、少子高齢化が進む中、市役所だけでは持続的なサービスを提供できない。市民に地域のことを考えてもらう取り組みとしてこのような手法は効果的であり、また、行政にとっても直接市民や民間の声を聴くことができる貴重な機会となっているとのことである。

一方、課題としては、「参加者の確保（一般公募の人数の確保）」「自発的な活動運営への移行」があげられた。参加者については、先述のとおり今年度は公募の数を増やしている。現状では参加者は確保できているが、今後の新しい人の参画見通しは厳しいと見ている。まずは継続的に活動を続けていくために、OBOG等に主体的に地域づくりに関わり続けてもらうための仕掛けを整えたいとのことである。それが若者に地域づくり活動に興味を持ってもらうきっかけになる

かもしれない。

また、自発的な運営への移行については、計画的に進めている最中にある。1年目は真岡市を知り、課題を見つける。2年目は見つけた課題を深掘りし、事業化への可能性を探る。そして3年目は行政計画の策定に向けた若者会議の運営を担う。これに続く次年度の予定を聞いたところ、令和6年度は市政施行70周年に当たることから、記念行事の開催を事務局案として考えているが、実際には若者会議が主体的に検討していくようにしたいとのことであった。一つひとつ段階を踏みながら、自走に向けた準備をしていると言えるだろう。

5. 今後に向けて

真岡市は今後も「選ばれる都市もおか」の実現に向けて、若者会議の取り組みを推進していく。この若者会議という器の可能性について訊いたところ、公共私連携・協働のプラットフォームになりうるが、それが機能するためには民間事業者や市内団体による主体的な地域づくり活動の充実が欠かせず、そうした活動の機運を醸成し支援することが市の役割と考えているとのことであった。

加えて、若者政策のもう一方の柱である「真岡まちづくりプロジェクト」と若者会議の双方が有機的に発展していけるよう筋道をつけることも重要であるとの話もあった。若者会議という器と、その中身に当たる主体的な地域づくり活動の充実を同時に進めていくというのが、真岡市の基本的なスタンスということだろう。

また、真岡市の特徴である職員委員の参加については、若手職員の人脈の広がり・成長という点でよい感触を得ているように感じられた。職員と民間団体・事業者では置かれている立場も役割も異なる。その違いを補い合う基盤・話し合いの場ができたことが、真岡市の資源拡大につながっていることは間違いがない。そこに加わる大学生が真岡市に興味を持つことにつながればなおさらである。学生が職員と活動を共にすることで、期せずして市のインターンシップのような役割を果たしているとも言えよう。

まちの将来について誰かと共に考え、汗をかく。複合的に進められている真岡市の若者施策が「よりよいまちにしていこう」という共通の目的の実現に結実することを期待したい。

【謝辞】

本報告の執筆に際して、ご多忙の中、ヒアリング等に応じてくださった真岡市の関係者の皆様に御礼申し上げます。